

科目名	外国語②			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Foreign Language			総時間数	30	単 位	2
学 年	2 年	学 期	前期	曜 日	金	時 限	2

担当教員	Kevin Ryujin	実務者経験	平成23年4月～専門学校にて英語講師として教育に携わる。
------	--------------	-------	------------------------------

学習内容	英語によるコミュニケーション方法を学ぶ。
到達目標	挨拶程度の会話ができる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	配布プリント、最新歯科技工士教本 歯科英語（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	オリエンテーション	イントロダクション、クラスでの英語について
2	Is/Are…? の質問	食べ物を表す形容詞 食べ物の好みについての質問と回答
3	Wh…? の質問	スポーツについて述べるときに使う形容詞 Where/What/Why…? Wh-で始まる疑問文を用い、スポーツについて意見を尋ねる
4	How is/are…? の質問	さまざまな形容詞を用いて、様々な場所について表現する How is/are…? を用いて故郷、街、様々な国について述べる
5	Do you like…?	音楽の嗜好について
6	Love/like/don't like/ hate を用いた質問	映画の好みについて述べる
7	Preferences.	自由時間の過ごし方について“like to” “prefer to” “want to”を用いた表現
8	復習	復習
9		
10		
11		
12		

科目名	統計学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Statistics			総時間数	15	単 位	1
学 年	2年	学 期	後期	曜 日	月	時 限	1,2時限

担当教員	山口 哲	実務者経験	大阪大学大学院歯学研究科歯科理工学 准教授
------	------	-------	-----------------------

学習内容	統計学の概要を学ぶ。 エクセルを用いてデータの検定を行う。
到達目標	エクセル統計を用いて実験データの検定を行う。

準備学習 時間外学習	エクセルの基本操作が必要。
使用教材	『マンガでわかる統計学』（オーム社），『エクセル統計学』（オーエムエス出版），配布プリント
留意点 備 考	エクセルの基本操作が求められる。

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	データの種類	度数分布表とヒストグラム，平均値，標準偏差，度数分布表の階級幅を理解する
2	基準値と偏差値，確率	基準値，偏差値，正規分布を理解する。
3	2変数の関連	単相関係数，相関比を理解する。
4	検定	エクセルを用いて具体的な検定ができる。
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

東洋医療専門学校 歯科技工士学科

科目名	コミュニケーション学			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Communication Studies			総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜	時 限	2

担当教員	矢部 有香	実務者経験	2000年より、大学・短期大学・専門学校・委託訓練など、さまざまなところで情報教育に携わっている。
------	-------	-------	---

学習内容	話す、聞くにとどまらず、話の組み立て方や伝え方を学ぶ
到達目標	医療人として、社会人として通用するコミュニケーション力を身につける 効果的なコミュニケーションの方法を体系的に理解する

準備学習 時間外学習	無し
使用教材	プリント教材
留意点 備 考	無し

成績評価	最終発表
------	------

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	話す・聴く	自己紹介発表、傾聴 演習を通じて、話すこと、聴くことの大切さを実感する。
2	伝える	グループワーク 演習を通じて、相手の立場に立った伝達スキルを身につける。
3	情報活用	グループワーク 演習を通じて、グループ内での話し合いや小社会を体験する。
4	発表	最終発表 これまでの授業を振り返り、今後の学びについて発表する。
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

東洋医療専門学校 歯科技工士学科

科目名	歯科技工管理学②(歯科技工士関係法規)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Dental Laboratory Practice Administration 2 Law for Dental-technologist			総時間数	15	単位	1
学年	2学年	学期	前期	曜日	木	時限	2

担当教員	一棟徳和	実務者経験	歯科技工士 昭和46年4月～平成15年3月歯科技工士養成所にて歯科技工士教育に携わる。
------	------	-------	--

学習内容	衛生行政、歯科技工士法、医療法、歯科医師法、歯科衛生士法、健康政策及びその他関連法規
------	--

到達目標	法律の概要を説明できる。 歯科技工士法のを説明できる。
------	--------------------------------

準備学習 時間外学習	教科書をよく読むこと。新聞、テレビ、雑誌、インターネット等、社会現象や動向に関心を向けること。
---------------	---

使用教材	全国歯科技工士教育協議会 編集 歯科技工管理学Ⅱ 歯科技工士関係法規。
------	-------------------------------------

留意点 備考	社会的現象や動向と法律との関係がないかどうか、関心を寄せること。
-----------	----------------------------------

成績評価	筆記試験
------	------

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	衛生行政	法律の概要 衛生行政の概要 歯科衛生行政
2	衛生行政 歯科技工士法	歯科技工士と衛生行政の組織 歯科技工士法の成り立ち 歯科技工士法 総則 免許
3	歯科技工士法	試験 業務 歯科技工所 雑則・罰則・附則抄
4	健康政策と その他の関係法規	医療法・歯科医師法・歯科衛生士法、医療関係職種の実規、薬事衛生法規・ 保健衛生法規・予防衛生法規・労働衛生法規、社会保障関係法規、健康政策
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
15		

科目名	顎口腔機能学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Stomatognathic Function Science			総時間数	15	単位	1
学年	2	学期	前期	曜日	月、金	時限	1.5

担当教員	①菅野 恵介 ②室谷 有紀	実務者経験	①歯科医師、平成30年4月～大阪大学歯学部附属病院咀嚼補綴科にて、補綴治療を主とした治療を行っている。 ②歯科医師、平成30年4月～大阪大学歯学部附属病院咀嚼補綴科にて、補綴治療を主とした治療を行っている。
------	------------------	-------	--

学習内容	歯科医師と歯科技工士が協力し生体に調和した形態で機能する補綴物を製作するために必要な、顎口腔機能及び顎口腔系を構成する生体の組織について学ぶ。
到達目標	顎口腔機能及び顎口腔系の構成について理解し、臨床の場で歯科医師との連携に実際に活用できる。 歯科技工士国家試験に対応できる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習を行うと好ましい。
使用教材	教科書「顎口腔機能学」（全国歯科技工士教育協議会編集）及び配布プリント
留意点 備考	特記事項なし

成績評価	小テスト30%+期末テスト70%
------	------------------

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	【1 顎口腔系の形態】 【2 顎口腔系の機能】	歯と歯列、顎口腔系を構成する骨・筋、顎関節 顎口腔系の機能と形態の維持、基準点・基準面、咬合に関する平面、下顎位
2	【3 下顎位】 【4 下顎運動】	下顎位 下顎運動の種類、下顎の基本運動・限界運動・機能運動
3	【6 咬合器】 【7 咬合検査と顎機能障害】	咬合器の使用目的、分類、フェイスボウトランスファー、咬合採得 咬合検査、顎機能障害
4	【5 歯の接様式】	歯の形態と機能、咬頭嵌合位における咬合接触
5	【5 歯の接様式】	偏心位における咬合接触、咬合干渉
6		
7		
8		
9		
10		
11		

科目名	矯正歯科技工学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Dental Technology for Orthodontic Appliances			総時間数	15	単位	1
学年	2年	学期	前期	曜日	木	時限	2

担当教員	平木 建史	実務者経験	歯科医師 昭和57年12月～歯科臨床に携わる、現在に至る。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	矯正歯科治療の意義を理解し、矯正装置の制作方法を学ぶ。
到達目標	矯正歯科治療の意義を理解し、矯正装置の制作方法を列挙できる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学（医歯薬出版）
留意点 備考	

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	矯正歯科技工学の意義と目的	矯正歯科治療とは
2	正常咬合と不正咬合（咬合異常）	正常咬合、不正咬合（咬合異常）、アングルの不正咬合の分類
3	矯正装置の必要条件と分類	矯正装置の必要条件、矯正装置の分類
4	矯正装置の製作法	舌側弧線装置、ナンスのホールディングアーチ 咬合挙上板、固定式拡大装置 ホーレーの保定装置、
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

科目名	総合領域 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Synthetic Studies 1			総時間数	60	単位	4
学年	2年	学期	前期	曜日	月～金	時限	2, 1.5

担当教員	①杉田順弘 ②大石直之 ③山本高德 ④石田真里	実務者経験	①歯科技工士 昭和58年10月～本校専任教員 ②歯科技工士 平成2年4月～本校専任教員 ③歯科技工士 平成9年4月～本校専任教員 ④歯科技工士 平成8年4月～本校専任教員
------	----------------------------------	-------	--

学習内容	学説国家試験で出題される8科目の講義を行い、2年時終了までに身につけておくべき知識を復習する。
到達目標	模擬試験合格水準

準備学習 時間外学習	8教科の復習が必要。
使用教材	配布プリント
留意点 備考	

成績評価	模擬試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	模擬試験	100問（4教科）の模擬試験の実施
2	解答と解説	歯科理工学
3	解答と解説	歯冠修復技工学
4	解答と解説	有床技祭儀工学
5	解答と解説	口腔顎顔面解剖学
6	模擬試験	100問（8教科）の模擬試験の実施
7	解答と解説	歯科理工学、口腔顎顔面解剖学
8	解答と解説	歯冠修復技工学、歯科技工士関係法規
9	解答と解説	有床技祭儀工学、小児歯科技工学
10	解答と解説	顎口腔機能学、矯正歯科技工学
11	模擬試験	100問（8教科）の模擬試験の実施

12	解答と解説	歯科理工学、口腔顎顔面解剖学
13	解答と解説	歯冠修復技工学、歯科技工士関係法規
14	解答と解説	有床技祭儀工学、小児歯科技工学
15	解答と解説	顎口腔機能学、矯正歯科技工学
16	解答と解説	有床技祭儀工学
17	解答と解説	歯冠修復技工学

科目名	総合領域 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Synthetic Studies 2			総時間数	30	単 位	2
学 年	2 年	学 期	後期	曜 日	月～金	時 限	2, 1.5

担当教員	①杉田順弘 ②大石直之 ③山本高德 ④石田真里	実務者経験	①歯科技工士 昭和58年10月～本校専任教員 ②歯科技工士 平成2年4月～本校専任教員 ③歯科技工士 平成9年4月～本校専任教員 ④歯科技工士 平成8年4月～本校専任教員
------	----------------------------------	-------	--

学習内容	学説国家試験で出題される 8 科目の講義を行い、2 年時終了までに身につけておくべき知識を復習する。
到達目標	模擬試験合格水準

準備学習 時間外学習	8 教科の復習が必要。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	模擬試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	模擬試験	100問（8教科）の模擬試験の実施
2	解答と解説	歯科理工学、口腔顎顔面解剖学
3	解答と解説	歯冠修復技工学、歯科技工士関係法規
4	解答と解説	有床技祭儀工学、小児歯科技工学
5	解答と解説	顎口腔機能学、矯正歯科技工学
6	解答と解説	歯科理工学、口腔顎顔面解剖学
7	解答と解説	歯冠修復技工学、歯科技工士関係法規
8	解答と解説	有床技祭儀工学、小児歯科技工学
9	解答と解説	顎口腔機能学、矯正歯科技工学
10		
11		

科目名	歯冠修復技工学実習 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Fixed Dental Prosthesis and Restorations 2			総時間数	90	単 位	3
学 年	2 年	学 期	前後期	曜 日	月・水・木・金	時 限	2, 1.5

担当教員	①山本高德 ②小川博和 ③山本博士 ④榊原秀憲 ⑤萬永喬義	実務者経験	①歯科技工士 平成9年4月～本校専任教員 ②歯科技工士 平成6年4月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ③歯科技工士 昭和60年5月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ④歯科技工士 平成10年12月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ⑤歯科技工士 平成26年12月～歯科技工所を開設、現在に至る。
------	---	-------	---

学習内容	知識・技術を歯科臨床の場面に適用し、理論と実践を結び付けて理解できる能力と技術力を習得する。他者の意見を整理し、自分の意見を相手に伝達するために、基本的知識、技能および態度を修得する。
到達目標	各種の歯冠修復物に関する知識を学習し、歯冠修復物製作の技術を習得する。レジン前装冠、ブリッジを製作することができる。

準備学習 時間外学習	教科書『歯冠修復技工学』（医歯薬出版）におけるブリッジの概要と種類、クラウンとブリッジの具備要件や製作を復習する。
使用教材	教科書『歯冠修復技工学』（医歯薬出版）、『歯科技工学実習トレーニング本』（医歯薬出版）、配布プリント
留意点 備考	歯の形を覚えるために、教科書『口腔・顎顔面解剖学』と専門雑誌『歯科技工』（医歯薬出版）・『QDT』（クインテッセ出版）の掲載写真等を参考に実習に取り組むことが望ましい。

成績評価	完成作品の提出後、前期実技試験を行い評価する。後期実技試験を行い評価する。
------	---------------------------------------

授業計画【テーマ・内容・目標】			時限
1	作業用模型の製作	歯科技工に必要な作業模型の製作材料の種類と特徴を説明できる。クラウン・ブリッジの製作順序を説明できる。作業用模型を製作できる。	
2	作業用模型の製作	作業用模型を製作できる。	
3	咬合器へ装着	咬合器の使用手順と調節方法を説明できる。作業用模型の製作法を説明でき咬合器に作業用模型を装着できる。	
4	ワックスアップ	歯のスケッチにより歯の形態を正確に描写できる。歯の形態を説明できる。ワックスアップの種類と方法を説明できる。レジン前装冠を製作できる。	
5	ワックスアップ	下顎の基本運動の種類と特徴を説明できる。レジン前装冠製作のワックスアップができる。ブリッジ製作のワックスアップができる。	
6	ワックスアップ	機能咬頭、非機能咬頭および被蓋関係を説明できる。レジン前装冠とブリッジ製作のワックスアップができる。ポンティックの要件と構造を列挙できる。ポンティックの種類と形態を説明できる。	
7	ワックスアップ	咬頭嵌合位と偏心位の咬合接触を説明できる。レジン前装冠を製作できる。ブリッジを製作できる。ポンティックの適用部位を説明できる。	
8	フレームデザイン	歯冠用硬質レジンと金属との接着の原理・方法を説明できる。歯科用CADソフトウェアを扱いフレームデザインができる。前装部の形態と接着法を説明でき窓開けができる。	
9	埋没	埋没材の種類・性質、埋没操作および鑄型加熱を説明できる。レジン前装冠を製作できる。ブリッジを製作できる。	
10	鑄造	合金の融解と鑄込み方法を説明できる。レジン前装冠製作の鑄造ができる。ブリッジ製作の埋没ができる。	
11	切削・研削・中研磨	切削・研削・研磨用材料と器械の取り扱い方を説明できる。レジン前装冠製作のメタル調整ができる。ブリッジ製作の鑄造～粗研磨ができる。	

12	メタルフレーム調整	フィニッシングラインの形態・形状を説明できる。連結法の種類、適応および用途を説明できる。メタルフレームの調整が出来る。
13	実技模擬試験・講評	【実技模擬試験・講評】正しい言葉遣いで会話できる。適切な伝達法を選択できる。歯の形態を説明できる。中切歯のワックスアップができる。
14	前装材の築盛・重合	歯冠用硬質レジンと金属との接着の原理・方法を説明できる。。前装材の築盛・重合ができる。ブリッジ製作における連結法の種類、適応および用途を説明できる。
15	前装材の築盛・重合	レジン前装冠とブリッジ製作におけるレジン築盛・重合ができる。

科目名	歯冠修復技工学実習 2		必修/選択	必修	授業形式	実習	
【英】	Practice of Dental Technology for Fixed Dental Prosthesis and Restorations 2		総時間数	90	単 位	3	
学 年	2 年	学 期	前後期	曜 日	月・水・木・金	時 限	2, 1.5
授業計画【テーマ・内容・目標】							
16	前装材の形態修正	歯の形態を説明できる。レジン前装冠とブリッジ製作におけるレジン築盛・重合ができる。前装部の形態修正ができる。					
17	前装材の形態修正	歯の形態を説明できる。レジン前装冠とブリッジ製作におけるレジン築盛・重合ができる。前装部の形態修正ができる。					
18	研磨・作品提出	補綴装置の仕上げの、表面仕上げの意義と目的を説明できる。研磨の意義と目的を説明できる。研磨法を説明できる。自己点検自己評価表の作成。					
19	前期実技試験講評	【前期実技試験講評】適切な伝達法を選択できる。歯の形態を説明できる。上顎中切歯のワックスアップができる。					
20	作業用模型の製作	クラウンの製作順序を説明できる。作業用模型を製作できる。					
21	実技模擬試験・講評	【後期実技模擬①試験・講評】適切な伝達法を選択できる。歯の形態を説明できる。上顎第二小臼歯のワックスアップができる。					
22	実技模擬試験・講評	【後期実技模擬②試験・講評】適切な伝達法を選択できる。歯の形態を説明できる。上顎第二小臼歯のワックスアップができる。					
23	実技模擬試験・講評	【後期実技模擬③試験・講評】適切な伝達法を選択できる。歯の形態を説明できる。上顎第二小臼歯のワックスアップができる。					
24	実技模擬試験・講評	【後期実技模擬④試験・講評】適切な伝達法を選択できる。歯の形態を説明できる。上顎第二小臼歯のワックスアップができる。					
25	後期実技試験講評	【後期実技試験講評】適切な伝達法を選択できる。歯の形態を説明できる。上顎第二小臼歯のワックスアップができる。					
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							

科目名	歯冠修復技工学実習 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Fixed Dental Prosthesis and Restorations 4			総時間数	100	単 位	3
学 年	2 年	学 期	前期・後期	曜 日	月～金	時 限	2, 1.5

担当教員	①杉田順弘 ②山本高德	実務者経験	①歯科技工士 昭和58年10月～本校専任教員 ②歯科技工士 平成9年4月～本校専任教員
------	----------------	-------	--

学習内容	審美修復の意義と目的を理解し、メタルボンドクラウン製作の基本的な技工操作を習得する。
到達目標	メタルボンドクラウンを完成させるために材料の特性を理解し、フレームをデザインし、陶材を取り扱う。

準備学習 時間外学習	1年時の歯冠修復技工学の復習が必要。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	作品の完成で評価する。
------	-------------

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	作業用模型の製作	作業用模型を高い精度で扱える。 石膏流し ～ トリミング ～ ダウエルピン植立 ～ 二次石膏注入
2	作業用模型の製作	作業用模型を高い精度で扱える。 セパレート ～ トリミング ～ 咬合器装着
3	ワックスフレームの製作	ワックスアップ（形態回復）ができる。 ワックスアップ
4	ワックスフレームの製作	ワックスアップ（形態回復）ができる。 ワックスアップ
5	ワックスフレームの製作	ワックスアップ（形態回復）ができる。 ワックスアップ ～ シリコンコア採得
6	ワックスフレームの製作	ワックスアップ（形態回復）ができる。 ワックスアップ ～ シリコンコア採得
7	ワックスフレームの製作	前歯部ベニヤタイプの開窓ができる。 マージン圧接 ～ 開窓 ～ フィニッシングライン形成 ～ ノブ付与
8	ワックスフレームの製作	臼歯部フルベイクタイプの開窓ができる。 マージン圧接 ～ 開窓 ～ フィニッシングライン形成 ～ ノブ付与
9	埋没操作	リン酸塩系埋没材を用いた埋没が出来る。 スプルーイング ～ 埋没
10	埋没操作	リン酸塩系埋没材を用いた埋没が出来る。 スプルーイング ～ 埋没
11	鑄造	高周波を用いた（酸素を用いた）鑄造が出来る。 加熱 ～ 鑄造
12	鑄造	高周波を用いた（酸素を用いた）鑄造が出来る。 加熱 ～ 鑄造
13	鑄造	高周波を用いた（酸素を用いた）鑄造が出来る。 加熱 ～ 鑄造

14	メタルフレームの製作	適合調整が出来る。 フィッティング ~ 調整
15	メタルフレームの製作	焼付面の処理ができる。 メタル調整

科目名	歯冠修復技工学実習 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Fixed Dental Prosthesis and Restorations 4			総時間数	100	単 位	3
学 年	2 年	学 期	前期・後期	曜 日	月～金	時 限	2, 1.5
授業計画【テーマ・内容・目標】							
16	陶材築盛	陶材が扱える。 オベーク築盛・焼成					
17	陶材築盛	陶材が扱える。 オベーク築盛・焼成					
18	陶材築盛	陶材が扱える。 オベーク築盛・焼成					
19	陶材築盛	陶材が扱える。 マージンポーセレン築盛・焼成					
20	特別講義	「審美歯科のあり方と天然歯形態」 西村好美 先生					
21	陶材築盛	陶材が扱える。 ボディ築盛・焼成					
22	陶材築盛	陶材が扱える。 ボディ築盛・焼成 ～ エナメル築盛デモ					
23	陶材築盛	陶材が扱える。 エナメル築盛・焼成					
24	陶材築盛	陶材が扱える。 形態修正					
25	陶材築盛	陶材が扱える。 形態修正					
26	陶材築盛	陶材が扱える。 形態修正 ～ 追加築盛・焼成					
27	陶材築盛	陶材が扱える。 形態修正 ～ グレージング					
28	研磨	研磨ができる。 メタル研磨 ～ 完成					
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							

科目名	歯科技工実習 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology 2			総時間数	30	単 位	1
学 年	2 年	学 期	後期	曜 日	月～金	時 限	2, 1.5

担当教員	①杉田順弘 ②大石直之 ③山本高德 ④倉田浩二 ⑤石田真里	実務者経験	①歯科技工士 昭和58年10月～本校専任教員 ②歯科技工士 平成2年4月～本校専任教員 ③歯科技工士 平成9年4月～本校専任教員 ④歯科技工士 平成13年4月～本校専任教員 ⑤歯科技工士 平成8年4月～本校専任教員
------	---	-------	---

学習内容	各専門教科ごとの実習で学んだ技術を実践するために、総合的に複数教科に関する技術を理論と結び付けて理解する。
到達目標	総合的に複数教科に関する技術を理論と結び付けて理解する。

準備学習 時間外学習	各専門教科の実習の復習が必要。
使用教材	特になし
留意点 備 考	

成績評価	実習作品・レポートの提出で評価する。
------	--------------------

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	歯冠修復技工学	精度の高い模型製作
2	有床義歯技工学	品質の高い咬合床の製作
3	有床義歯技工学	ベラシアを用いた個性配列
4	有床義歯技工学	ベラシアを用いた個性配列
5	歯冠修復技工学	審美形態の表現
6	歯の解剖学	臨床形態を表現した石膏彫刻
7	歯冠修復技工学	精度の高い模型製作
8	有床義歯技工学	品質の高い咬合床の製作
9	有床義歯技工学	品質の高い咬合床の製作
10		
11		

科目名	歯科技工実習 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology 4			総時間数	120	単 位	4
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月～金	時 限	2, 1.5

担当教員	①杉田順弘 ②山本高德	実務者経験	①歯科技工士 昭和58年10月～本校専任教員 ②歯科技工士 平成9年4月～本校専任教員
------	----------------	-------	--

学習内容	オールセラミッククラウンの材料の特性を理解し、フレームをデザインし、陶材を取り扱う。 CAD-CAMシステムを用いてジルコニアフレームのオールセラミッククラウンをデザインする。
到達目標	プレス型オールセラミッククラウン（e.max）を完成する。 CAD-CAMを用いてジルコニアフレームのオールセラミッククラウンを完成する。

準備学習 時間外学習	歯科理工学における陶材の材料特性の関連を復習する。 歯冠修復技工学におけるクラウンのフレーム形態を復習する。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	専門雑誌（歯科技工、QDT等）の掲載写真を参考に歯の色について予習して実習に取り組むことが望ましい。

成績評価	完成作品で評価する。
------	------------

回数	授業計画【内容・目標】	
1	特別講義	イボクラール大阪研修センターにてe.maxシステムの概要講義
2	e.max実習	模型製作
3	e.max実習	模型製作
4	e.max実習	ワックスアップ
5	e.max実習	ワックスアップ
6	e.max実習	ワックスアップ ～ スプルーイング
7	e.max実習	埋没 ～ 加熱 ～ プレス
8	e.max実習	埋没 ～ 加熱 ～ プレス
9	e.max実習	埋没 ～ 加熱 ～ プレス
10	特別講義	小林守先生 「歯科技工のやりがい」
11	e.max実習	適合 ～ 調整
12	e.max実習	適合 ～ 調整
13	e.max実習	荘村先生 「CAD-CAMの現状と概要」
14	e.max実習	陶材築盛

科目名	歯科技工実習 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology 4			総時間数	120	単 位	4
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月～金	時 限	2, 1.5
回数	授業計画【内容・目標】						
16	e. max実習	陶材築盛					
17	e. max実習	陶材築盛					
18	e. max実習	陶材築盛					
19	e. max実習	陶材築盛					
20	e. max実習	陶材築盛					
21	e. max実習	形態修正					
22	e. max実習	形態修正					
23	e. max実習	ステイニング					
24	e. max実習	グレージング・完成					
25	CAD-CAM実習	模型製作					
26	CAD-CAM実習	模型製作					
27	CAD-CAM演習	デザイン・設計					
28	CAD-CAM実習	ジルコニアコーピング調整					
29	CAD-CAM実習	陶材築盛					
30	CAD-CAM実習	陶材築盛					
31	CAD-CAM実習	陶材築盛					
32	CAD-CAM実習	形態修正					
33	CAD-CAM実習	グレージング					
34	CAD-CAM実習	グレージング					
35	CAD-CAM実習	グレージング・完成					
36							
37							
38							
39							

東洋医療専門学校 歯科技工士学科

科目名	歯科技工実習 5			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology 5			総時間数	70	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月火水木金	時 限	2, 1.5

担当教員	①前田博規 ②森下昌治 ③船渡善夫 ④高橋康一 ⑤榊原秀典 ⑥萬永喬義 ⑦小塩寛至 ⑧山本博士 ⑨田中利哉	実務者経験	①歯科技工士、平成15年1月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ②歯科技工士、昭和59年2月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ③歯科技工士、昭和58年1月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ④歯科技工士、昭和61年4月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ⑤歯科技工士、平成10年12月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ⑥歯科技工士、平成26年12月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ⑦歯科技工士、平成16年1月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ⑧歯科技工士、昭和60年5月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ⑨歯科技工士、平成10年1月～歯科技工所を開設、現在に至る。
------	---	-------	--

学習内容	臨床的模型を用いて、製作スケジュールを各自が管理し、定められた症例の装置を完成する。
到達目標	・上下無歯顎に標準的な咬合床や部分床義歯を製作する。 ・上顎無歯顎症例に各工程を経て鑄造床を製作・完成する。シリコーン印象材を用いて耐火模型を製作し、高周波真空圧迫鑄造機でコバルトクロム合金を鑄造する。

準備学習 時間外学習	各製作工程の目的を確認し、使用材料、器具の使用方法を復習する。 製作方法を復習するとともに、自己作品と完成見本作品を比較し、形態や適合精度、機能性の違いを確認する。
使用教材	『有床義歯技工学』最新歯科技工士教本、歯科技工学実習トレーニング(医歯薬出版)、および配布プリント
留意点 備 考	教本の掲載写真や図だけでなく、Q D T等の専門誌の技工物や教官の見本作品を参考に各工程での完成をイメージして実習に取り組むことが望ましい。

成績評価	提出作品で評価する。
------	------------

回数	授業計画【内容・目標】	
1	模擬臨床模型実習	上下無歯顎咬合床 設計～リリース～ブロックアウト～レジン圧接
2	模擬臨床模型実習	上下無歯顎咬合床 形態修正～咬合堤溶着～外形の調整～表面処理・完成
3	模擬臨床模型実習	部分床義歯：人工歯排列～咬合調整
4	模擬臨床模型実習	部分床義歯：歯肉形成
5	模擬臨床模型実習	部分床義歯：フラスコ埋没
6	模擬臨床模型実習	部分床義歯：脱蠟～重合
7	模擬臨床模型実習	部分床義歯：粗研磨～中研磨
8	模擬臨床模型実習	部分床義歯：仕上げ研磨・完成
9	模擬臨床模型実習	鑄 造 床：設計～リリース・ブロックアウト

10	模擬臨床模型実習	鑄造床：シリコーン印象材による複印象採得
11	模擬臨床模型実習	鑄造床：耐火模型の製作～乾燥・表面処理
12	模擬臨床模型実習	鑄造床：ワックスアップ
13	模擬臨床模型実習	鑄造床：スプルーイング～埋没
14	模擬臨床模型実習	鑄造床：鑄造
15	模擬臨床模型実習	鑄造床：割出し～スプルーカット～サンドブラスト処理

東洋医療専門学校 歯科技工士学科

科目名	歯科技工実習 5		必修/選択	必修	授業形式	実習	
【英】	Practice of Dental Technology 5		総時間数	70	単 位	1	
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月火水木金	時 限	2, 1.5
回数	授業計画【内容・目標】						
16	模擬臨床模型実習	鑄 造 床：粗研磨(形態修正)					
17	模擬臨床模型実習	鑄 造 床：粗研磨(形態修正)～中研磨					
18	模擬臨床模型実習	鑄 造 床：中研磨					
19	模擬臨床模型実習	鑄 造 床：仕上げ研磨・完成チェック					
20	模擬臨床模型実習	鑄 造 床：作品の自己評価アンケート記入・提出					
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							

科目名	学外研修			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Externship			総時間数	45	単位	1
学年	2年	学期	後期	曜日	月～金曜日	時限	

担当教員	①杉田順弘 ②大石直之 ③山本高德 ④倉田浩二 ⑤石田真里	実務者経験	①歯科技工士 昭和58年10月～本校専任教員 ②歯科技工士 平成2年4月～本校専任教員 ③歯科技工士 平成9年4月～本校専任教員 ④歯科技工士 平成13年4月～本校専任教員 ⑤歯科技工士 平成8年4月～本校専任教員
------	---	-------	---

学習内容	歯科技工士に求められる責任感、誠実性、協調性、判断力を培い、実践能力を養う。 自己を客観的に評価し、自らを向上させる能力を身につける。 歯科技工の社会に必要な情報を収集し集団の中で社会性を身につける。
到達目標	自己を客観的に評価し、自らを向上させる態度を身につける。 歯科技工の社会に必要な歯科技工士の役割を理解する。

準備学習 時間外学習	1年時の歯科技工管理学の復習が必要。
使用教材	特になし
留意点 備考	

成績評価	レポート等の提出で評価する。
------	----------------

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	業界の情報収集	Ivoclar Vivadent 株式会社における研修（5時間） 販売歯科材料・歯科機器に関する情報から物流までを知る。
2	業界の情報収集	Ivoclar Vivadent 株式会社における研修（5時間） オールセラミッククラウンの製作技術と関連付けて自己を客観的に評価する。
3	業界の情報収集	Ivoclar Vivadent 株式会社における研修（5時間） オールセラミッククラウンの製作技術と関連付けて自己を客観的に評価する。
4	現場の情報収集	歯科技工所における研修（6時間） 歯科技工の社会に必要な歯科技工士の役割を理解し、向上心を持つ。
5	現場の情報収集	歯科技工所における研修（6時間） 歯科技工の社会に必要な歯科技工士の役割を理解し、向上心を持つ。
6	現場の情報収集	歯科技工所における研修（6時間） 歯科技工の社会に必要な歯科技工士の役割を理解し、向上心を持つ。
7	現場の情報収集	歯科技工所における研修（6時間） 歯科技工の社会に必要な歯科技工士の役割を理解し、向上心を持つ。
8	現場の情報収集	歯科技工所における研修（6時間） 歯科技工の社会に必要な歯科技工士の役割を理解し、向上心を持つ。
9		
10		
11		